第５回城端線・氷見線ＬＲＴ化検討会 議事概要

１．日時
令和５年２月２日（木）13 時 15 分から 14 時 40 分まで

２．場所
高岡市役所８階 801 会議室

３．出席委員
田中座長、河村座長代理、篠田委員、齊藤(一)委員、齊藤(宗)委員、川村委員

４．議事（概要）
（１）城端線・氷見線 LRT 化等の事業費調査結果
次の調査について、調査とりまとめ結果を共有
① 城端線・氷見線 LRT 化事業費調査
城端線・氷見線の全線を電化し、低床型の LRT 車両を導入した場合の事業費を複数の運行頻度に応じて明らかにするための調査
② 城端線・氷見線 LRT 化（電化）以外の交通モード検討調査
LRT（電化）との比較検討を行うため、LRT（電化）以外の交通モード（LRT（架線レス）、新型鉄道車両、BRT）の概算事業費や特色等を明らかにするための調査

５．主な意見等
・LRT 化する場合、大きな投資が必要なこと、運休期間が長くかかること、冬期間運行へのリスクが高いことは課題である。
・架線レス LRT と BRT も LRT（架線あり）と同様の課題があり、さらに追加の課題もあるので現実的には難しいのではないか。
・新型鉄道車両は、現行の輸送力確保が比較的容易なほか、LRT に比べ雪による影響が少ないこと、運休期間が無い又は短いことは大きなアドバンテージではないか。
・今後は「新型鉄道車両導入」及び「直通化」を想定して、更に議論、検討を深めていくという方向で進めても良いのではないか。
・今後の運営を考えた場合、LRT 化は現状よりもさらに車両や行き違い設備が必要になることから、これらにかかるランニングコストも必然的に大きくなると見込まれ、持続可能性という点で相当厳しいのではないか。
・LRT 化により、現状よりも混雑したり、降雪時には頻繁に運休したり、所要時間も延びることになりそうである。
・ヘビーレールのまま、新型鉄道車両を導入する、運行頻度を高める、交通系 IC カードを導入するなど、利用者の満足度につながる機能を充実させることが、この地域にとって最も馴染む姿ではないか。
・運休期間の長さは大きな課題であり、長期間の運休が沿線住民の鉄道離れに結び付くのではないか懸念される。

・LRT 化は、所要時間が現状から著しく延びるため、利用者の減少につながるのではないかと危惧される。
・サービスが現状維持できて、さらに利便性向上ができる新型鉄道車両が最も望ましいのではないか。
・これからの議論、検討にあたっては、概算でも構わないのでランニングコストの算出をお願いしたい。
・直通化が困難な場合には接続の利便性向上のための検討が必要かと考える。
・国においてもローカル線の在り方が議論され、「地域公共交通再構築事業」といったスキームも検討されており、今が絶好の機会である。
・地域にとって最適で持続可能な交通体系を実現していきたい。